

# 3学年通信

新宮町立新宮東中学校  
令和8年5月22日 第12号  
文責:江頭 俊輔

[勝ちと負けについて調べてみました!]

あっという間に中体連(中学校総合体育大会)が迫ってきています。糟屋区大会は6月の2週めから始まる部活動もあるので、残すところ「あと1か月」という時期です。体育会でもそうですが、中体連でも「勝ち」「負け」という結果はついてきます。ということで、今回は江頭が調べあげた「勝ち」「負け」に関わる名言をもとに、考えを広げていきましょう。

[①「負け」は弱さの証明ですか]

大人気漫画ハイキュー!!より、烏野高校バレー部顧問の武田先生の名言です。大切な試合に負けた後、主人公達は悔しくてなかなか立ち上がることができなくなります。そんな姿を見て、一言。「負け」は弱さの証明ですか?と語り始めます。確かに、負けたからといって、

それと「弱い」はイコールの関係ではないはずです。また立ち上がって歩み始めることが強さの証明です。

“負け”は弱さの証明ですか?

君達にとって“負け”は  
試練なんじゃないですか?

地に這いつくばったあと  
また立って歩けるかという

[②勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし]

勝ちに不思議の勝ちあり  
負けに不思議の負けなし

プロ野球の監督で有名な野村克也さんの座右の銘として有名です。この言葉は、実は江戸時代の平戸藩主・松浦静山(清)の剣術の教えに由来しているそうです。偶然勝つことはあるけど、偶然負けることはない。いろいろな要素が交錯し、負けるときは、それは必然という考え方です。負けたときに人のせいしがちな人には、是非、心に留めておいてほしい考え方です。

[③PKを外すことができるのは、PKを蹴る勇気をもつ者だけだ]

PKと言えば、サッカーです。(今年はW杯イヤーなので、サッカーの話題多めでいきます。)PKとは、サッカーの試合時間で決着がつかなかった場合に行う、いわば「サッカー版じゃんけん」みたいなものです。キッカーは11mの距離から横幅7.32mのゴールに向かってキックします。断然キッカー有利の状況ですが、有利過ぎて、プレッシャー



がかかり、名選手と呼ばれる選手でも失敗することがあります。今回の名言はイタリア代表のロベルト・バッジョ選手の言葉です。彼はイタリア稀代のエースとして10番を背負い、1990年のアメリカ開催のW杯に出場します。イタリアはとても強く、決勝戦まで進みます。優勝をかけた決勝戦は、イタリア対ブラジル。試合は0対0のまま、PK戦までもつれ込みます。イタリア代表の5人め(最後)のキッカーは10番ロベルト・バッジョ選手。成功すれば、PK続行、外せばブラジルの優勝が決まる魂の震える場面でした。

ロベルト・バッジョ選手が蹴ったボールはゴールの上空へ。ブラジルの優勝、そしてイタリアの準優勝が決まった一蹴となりました。この劇的な場面のあとに、ロベルト・バッジョ選手が発したのが「PKを外すことができるのは、PKを蹴る勇気をもつ者だけだ。」です。まさにその通りだと思います。想像を絶する緊張感の中、外したとしてもそれを責める人はいないと思います。勇気をもてる一言ですね。